

令和7年度 住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】

提案内容の概要

事業名称：「2つの壁を越える」

障害のある若者と高齢者による共生型食堂の就労モデル構築事業

代表提案者：株式会社エンジョイワークス

共同提案者：一般社団法人IKKA



1. これまでの取組

【課題設定型・事業者提案型】

神奈川県下で地域共創の取り組みを多数展開

〔代表提案者〕
株式会社エンジョイワークス



〔共同提案者〕
一般社団法人 I K K A



**みんなで まちづくり
みんなで
地域活性・地方創生**

創業以来、みんなでまちづくりを第一に、様々な声とニーズに向かい合ってきました。住む場とともに暮らしのスタイルを提案する＜不動産業1.0＞に始まり、自分仕様の家づくりを叶える＜不動産業2.0＞、地域の人が集まり、楽しめる「場」を生み出し、運営する＜不動産業3.0＞、まちを元気にする事業を投資によって応援する地域活性ローカルファンドを軸とした＜不動産業4.0＞、全国のまちづくり仲間とのネットワークをつくり、共創する＜不動産業5.0＞と、一つ一つボトムアップで、「仕掛けや機会」を創ってきました。そして今、みんなで支えるまちづくりの姿勢はそのままに、地方創生へと向かい、地方が抱える課題解決に日々取り組んでいます。

企業情報

- 不動産業 1.0
2008- 湘南暮らしの魅力を発見
不動産仲介・物件管理
- 不動産業 2.0
2013- 家づくりのジブンゴト化
建築設計・土地建物分譲
- 不動産業 3.0
2016- コミュニティと場を共創
場の運営・プロデュース
- 不動産業 4.0
2018- 事業と共感とお金で参加
共感投資ファンドの組成・運営・管理
- 不動産業 5.0
2021- 人や企業のネットワーク構築
人材育成とまちづくりネットワークの構築

ダウン症のある人・その家族の新しい形の支援



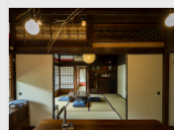
自治体・地域企業・地域住民とともに 地域共創拠点づくりを多数展開

＜旧村上邸＞
鎌倉市＋地域の人たち＋エンジョイワークスによる共創



能舞台や茶室を有し、景観重要建築物である歴史的邸宅。その新たな価値を市民参加型で共創しました。地域の人たちや団体利用をはじめ、企業研修場としても利用されています。

＜平野邸＞
地元のNPOや地域の人々とともに、古民家をみんなで楽しむ空間に



神奈川県葉山町の「平野邸Hayama」は、昭和初期の古民家を、「みんなの実家」をコンセプトに、地域の交流拠点と宿泊施設として再生。国の登録有形文化財にも登録されました。

地域のダウン症の方とその家族の新しい形を支援

「IKKA」はダウン症のある人たちの「強み」や「良さ」を活かし、彼・彼女らしく輝いて活躍できる場を広げることを目的に、保護者が中心となって結成。

2019年9月法人化。現在会員数：全国96家族。

「はたらく」「まなぶ」「暮らす」の3つを事業の柱に活動。

2019年より、ダウン症のある人の就労体験プログラム「ダウンインターン」を開催。（2024年度実績：85回）

1. これまでの取組

ダウン症の人の就労支援プログラム「ダウンインターン」 神奈川県鎌倉市の運営施設で共創で取り組む

旧村上邸-鎌倉みらいラボ- × 一般社団法人IKKA ダウンインターンプログラム

ダウンインターンプログラムは、1回1～2時間程度の作業をジョブメイトと共に行い、500～1000円のお給料（交通費）をもらい「仕事をするとお金がもらえる」体験をしてもらうプログラムです。

エンジョイワークスが運営する「旧村上邸-鎌倉みらいラボ-」では、一人ひとりの個性が活きる社会を目指し、ソーシャル・インクルージョンという切り口から持続可能な未来のためにできることを考えています。その一環として行っていることが、一般社団法人IKKAとの「ダウンインターン」活動です。

2020年から始まり、5年間継続実施しています。



旧村上邸でのインターン経験を経て、有名ホテルに採用された方・保育園の保育補助や企業のコーヒESHOPで働いている方が生まれています。

地域共創で ソーシャルインクルージョンな場づくりを進めています

2. 現状・問題意識

社会とのつながりを阻む壁と観光地特有の雇用構造

鎌倉市では、障害児の「18歳の壁」や高齢者の役割喪失といった全国的課題が、観光地特有の雇用構造と交差しながら深刻化している。

●障害児の「18歳の壁」

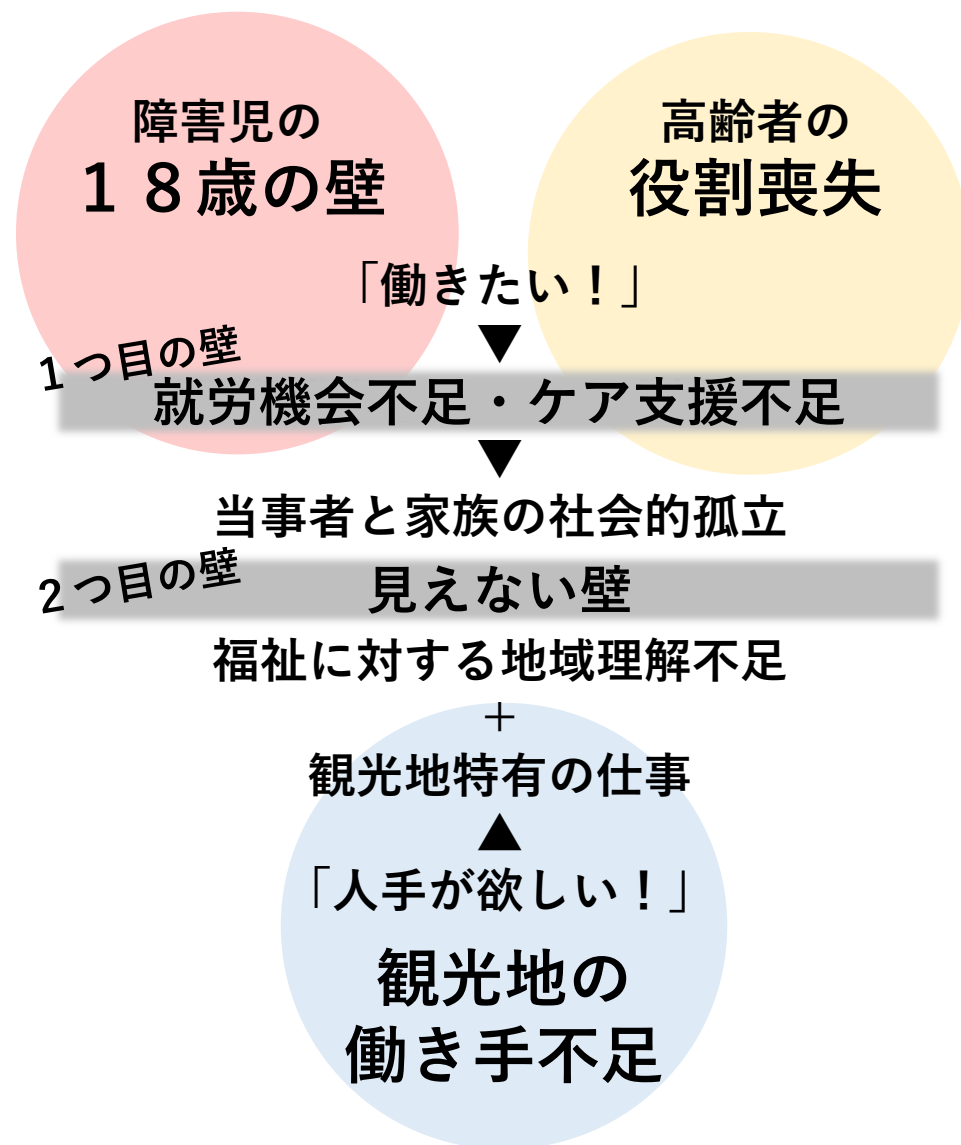
18歳を境に、障害児とその家族の制度支援の中身が変わり、進学・就労の選択肢が限られる現状がある。

●就労機会の不足・ケア支援不足

季節性や接客負荷の高い観光業の働き方は、重度障害者の若者や高齢者にとって適応が難しく、就労機会やケア支援の不足が、障害ある若者の共働き両親も含めた孤立を生んでいる。

●福祉に対する地域の理解不足

一方で、“福祉は関わりづらい・入りづらい”という先入観が招く「見えない壁」が、より地域からの孤立を生む一因となっている。



3. 提案内容

障害のある若者と高齢者による共生型食堂の就労モデル構築

鎌倉の観光地由比ガ浜通り沿いに位置する地域企業オフィスを活用し、
高齢者とダウン症の若者が協働する“共生型食堂”を運営
共生型就労モデル・共生型飲食店舗・地域雇用のモデルを構築普及させる

共生型就労モデル

障害者と高齢者が
協働した
就労モデル・運営体制

共生型飲食店舗 モデル

福祉の垣根を越えた
地域に選ばれ続ける
店舗プロデュース
デザイン作法

障害者の 地域雇用モデル

観光地特有の仕事にも
対応できる
地域企業の障害者雇用
制度の活用促進



障害者と高齢者の社会的孤立を生む「壁」と
敬遠されがちな福祉の「見えない壁」をなくし、
地域企業の雇用を生み出すモデル構築を目指す。

3. 提案内容

“選ばれる福祉”ではなく、“いつもの一軒”に

共生型食堂は、福祉施設ではありません。
地域に日常的に寄り添う 二毛作型の持続可能な飲食店店舗を実現

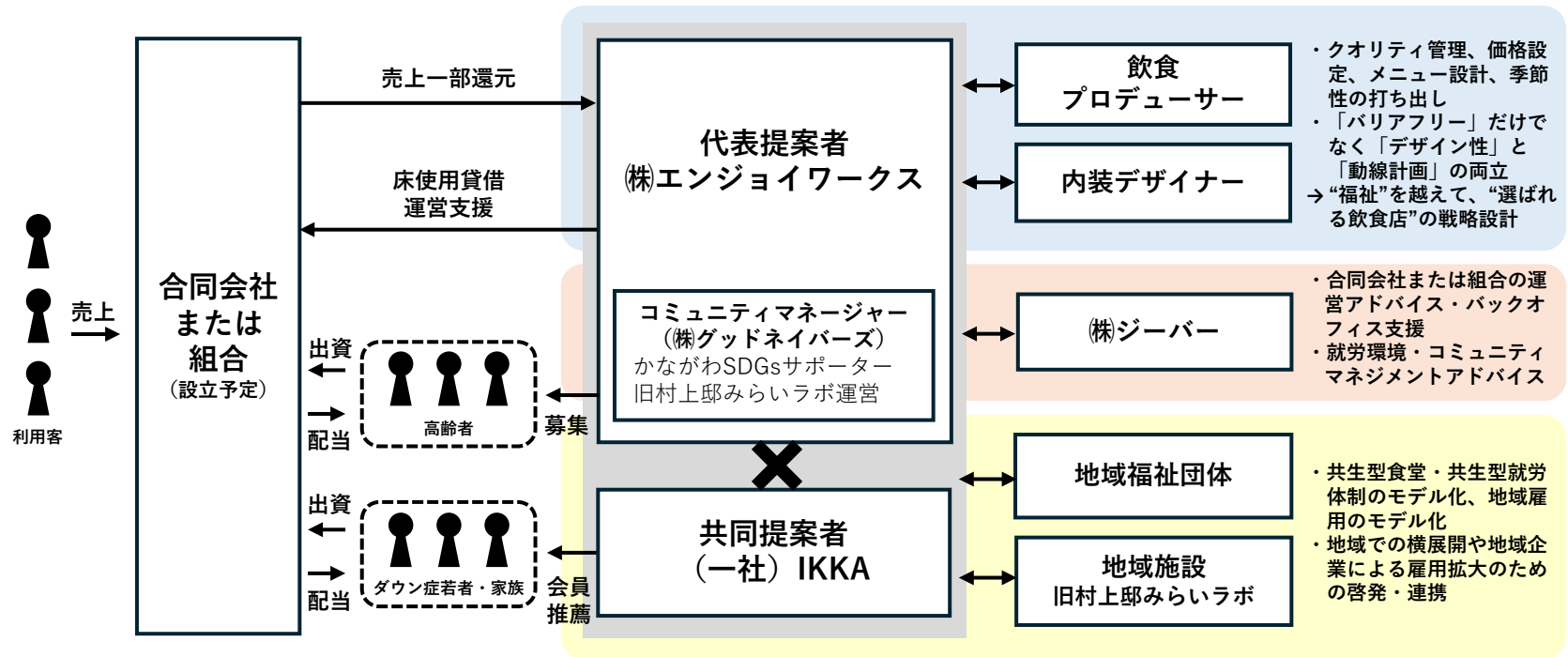


ジーバーFOODの運営モデルに、新たに障害者を就労者として加えた体制の検証

3. 提案内容

共生型飲食店舗の運営体制と地域連携スキーム

地域に日常的に寄り添う いつもの共生型飲食店舗の実現のためには
「福祉デザイン」×「飲食ブランディング」×「空間デザイン」の掛け算が必要



Point | ふつうに選ばれる・誰もが入りたくなる飲食店舗づくり

Point | 高齢者と障害者の共生型運営体制づくり

Point | 地域企業による雇用モデルづくりと普及啓発

3. 提案内容

誰が入りたくなる飲食店舗づくり

「いつもの一軒」の「地域交流」「福祉を知る」仕掛けとなる
飲食プロデュースと空間デザイン

●いつもの一軒に選ばれる飲食プロデュース

- ・クオリティ管理、価格設定、メニュー設計、季節性の打ち出し
- ・店舗づくりの支援（マーケット分析、店舗ブランディング（制服デザイン等）

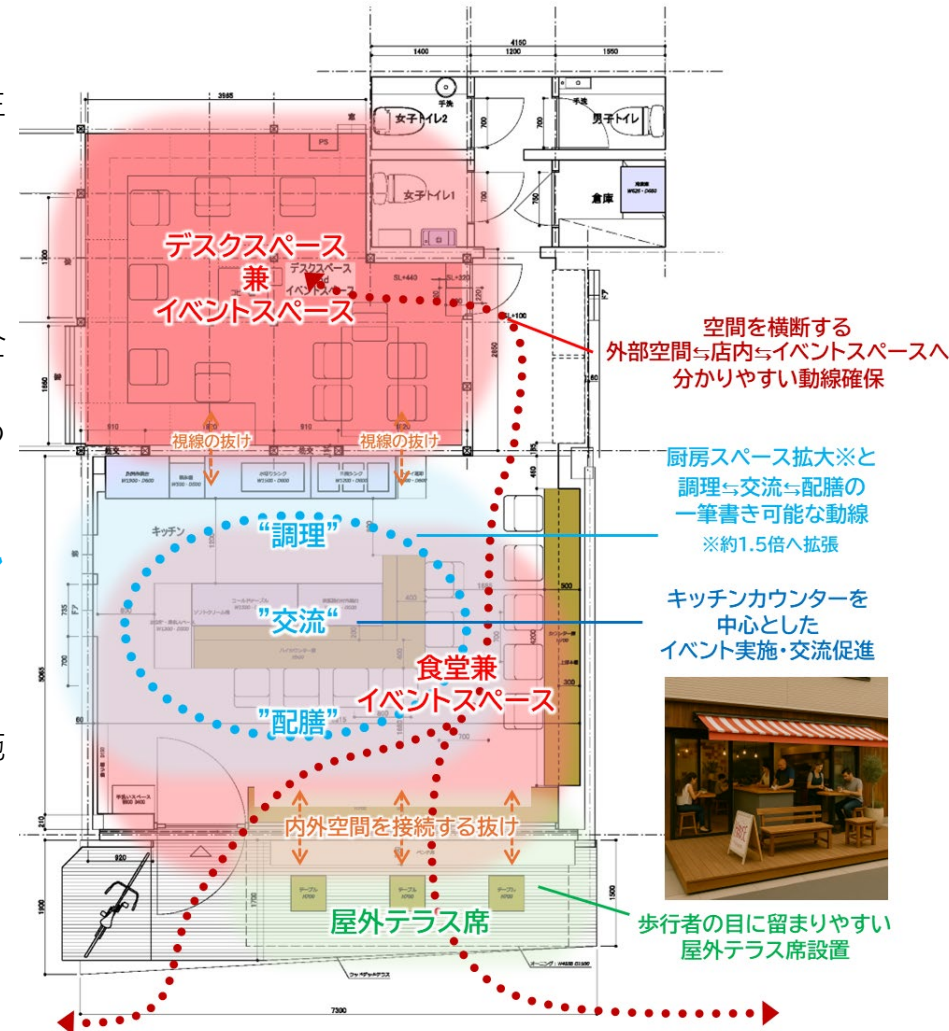
●バリアフリー動線 対話を生むオープンキッチン

- ・バリアフリーな就労環境（ゆとりあるスペースと全域段差レス動線確保）を確保
- ・カウンター高さを調理者・利用者双方の目線に合わせ、作業見える化と自然な会話を促進

●日常的に居心地よい・おしゃれ・美味しいデザイン

- ・キッチン・作業場・客席を区切らず、各種イベントを同一空間でシームレスに切り替え・運営できる空間構成
- ・外構テラス席と内部空間をつなぐ空間デザインと施設ブランディングにより、食堂としてのおしゃれ・おいしい・居心地よい空間を追求
- ・一般利用者や観光客が日常的に訪れるデザイン

共生型飲食店舗のデザイン作法として整理



3. 提案内容

共生型食堂・障害者雇用制度と連動した 地域企業によるソーシャルインクルージョンな雇用モデルの構築

地域企業の障害者雇用を促進させるためのモデル・体制・仕組みの構築と検証
地域での周知・普及を実施

●共生型就労モデルを検討

- ・短時間就労・少人数配置など、観光地における季節変動や業種特性に応じた雇用形態やリタイアした高齢者が「教育役」となり、若者の社会的自立や職場定着を支援する世代間連携型の雇用体制を検討。

●共生型食堂を拠点とした 地域企業の障害者雇用の流れを仕組化

- ・共生型食堂を拠点としたダウンインターンプログラムから障害者雇用につなぐ流れの組立て。
- ・地域企業が障害者の若者の「地域でのふつうの働き方」を支える担い手となる仕組み化。
- ・障害者雇用制度の活用方法を検討。

地域企業によるソーシャルインクルージョンな雇用モデルづくり

●地域福祉団体や「旧村上邸みらいラボ」と連携した地域普及活動

- ・地域企業に雇用モデルを広めていく活動として、地域福祉団体や「旧村上邸みらいラボ」と連携した周知イベントを実施。参加企業のアンケートより、仕組みの改善検討。

地域企業での雇用機会の発掘

地域企業への認知度向上

4. 期待される効果

障害者と高齢者の社会的孤独を解消しながら地域雇用課題も解決

就労モデル構築と店舗プロデュースが結果として
地域内での共感形成・雇用促進の流れを加速させる

1 異世代・異分野、福祉の枠を超えたボーダレスな地域共生就労モデル・運営体制が
障害のある若者と高齢者の社会的孤独を解決

〈期待される効果〉

障害者の「18歳の壁」突破
就労支援の受け皿創出

〈期待される効果〉

高齢者の「生きがい」の創出
共生型雇用の教育係としての役割創出



2 飲食プロデュースと空間デザインによる見えない福祉の仕掛けが地域理解を醸成

〈期待される効果〉

地域の心理的安全性・共感形成



3 本事業を拠点とした障害者雇用制度の柔軟な活用ができる仕組み

〈期待される効果〉

地域企業の雇用促進 + 観光地都市の雇用課題解決

5. 検証方法

共生就労モデルと障害者雇用モデルの有効性・普及可能性検証

各モデルの構築に向けた有効性の検証と改善 さらに普及可能性を検証します

●障害者と高齢者の共生型就労モデルの構築

検証①：
高齢者と障害者の協働可能性

就労高齢者・障害者への各ヒアリング・
ストレスチェック

検証②：
障害者の日常的就労モデルの持続性

障害者若者の日誌・就労意欲アンケート
障害者家族へのヒアリング

●共生型飲食店舗モデルの構築

検証③：
福祉の垣根を超えるデザイン検証

売上計測（全体・メニュー毎）
利用客の満足度アンケート（メニュー・空間・イベント等）
リピート利用客の計測

●地域企業の障害者雇用普及の可能性

検証④：
障害者雇用制度活用の
雇用モデルの普及可能性

雇用モデルのケースモデル作成
→地域企業への周知および導入可能性調査
（イベント＆アンケート・ヒアリング調査）